

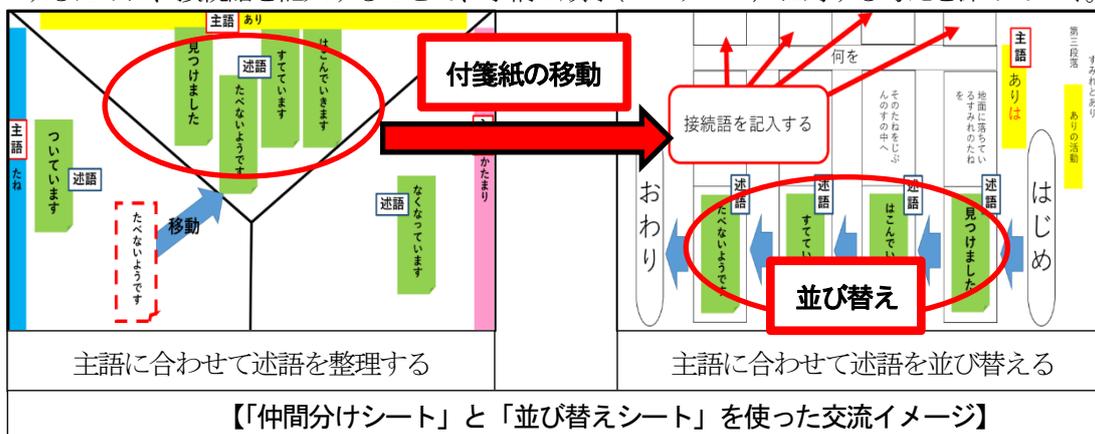
実践記録 (小2・国語科)

1 ねらい

説明しやすい文章の順序(シーケンス)を考えることができるようにする。

2 手立て

- 付箋紙と「仲間分けシート」を使って文章のまとまりを作る。付箋紙に本単元の述語を探し、記入した後、「仲間分けシート」の中に記述されている主語と結び付け、どの主語の時の述語が使われているかのまとまりを考えることができるようにする。
- 「仲間分けシート」にまとめられた述語を使って、「並び替えシート」で事柄の順序(シーケンス)を考える。「並び替えシート」では、扱う主語を一つに設定し、その主語に対する述語が書かれた付箋紙を、フローチャートの中に貼っていく。3、4人の小グループで交流をして教科書を確認しながら、修飾語を記入し、事柄の順序(シーケンス)を考える。最後に説明をできるようにするために、接続語を記入することで、事柄の順序(シーケンス)に対する考えを深めていく。



3 実践の様子

最初に述語にのみ着目し、付箋紙に書き込むことで、「仲間分けシート」に、「あり」、「種」、「かたまり」の主語に分類され、情報を円滑に分類することができた。

次に、児童は「並び替えシート」で主語を「あり」に設定し、「あり」がとった行動の順序を考えるため、付箋紙を移動した。グループでの交流活動では、どの主語に対してどの述語が正しいのかを考え合う姿が見られた。その後全体を通してその順序が正しいか、教師が「あり」の役を演じて確認すると、間違いがあることに気づき、全体で並び替えをすることができた。

4 成果と課題 (○成果、●課題)

- 「仲間分けシート」と付箋紙を使うことで、一つの主語に対する述語が何かを明確にすることができた。これは、分類することで、述語のまとまりを可視化したからだと考える。
- 「並び替えシート」を使うことで、一つの主語に対する述語だけでなく、説明で活用する接続語を円滑に活用することができた。意見交流を行うことで、効率よく活動することができた。
- 「仲間分けシート」では、個人で考える場の設定しかなかったため、「並び替えシート」を活用する際に時間がかかった。そのため、個人ではなく、グループの場の設定にする必要があった。
- 「並び替えシート」では、主語を絞って取り組んだため、他の主語でも同様の取り組みを行う必要があり、時間がかかった。そのため、グループごとに主語を変えて取り組むとよかった。